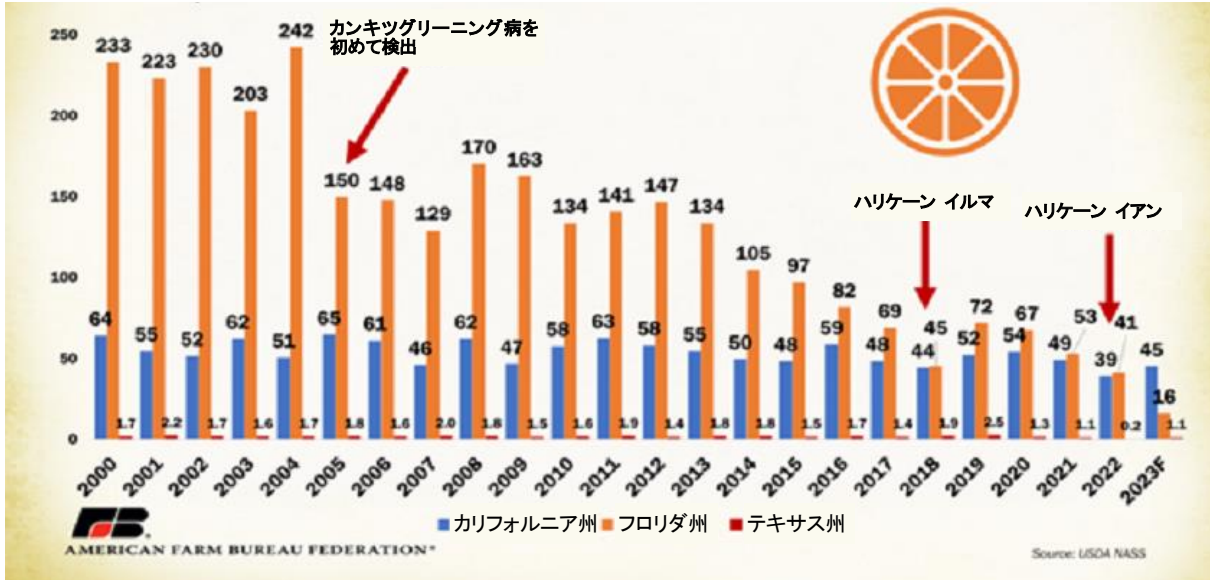


## 米国 柑橘類の世界的リーダーシップが低下と農業団体が警告

The Packer 2023年4月26日

図 オレンジの国内生産量(州別)

2000年～2023年予測値 単位:百万箱



フロリダ州のカンキツグリーニング病が同州のオレンジ出荷量に打撃を与えた(米国ファームビューロー連盟)

米国ファームビューロー連盟 (AFBF) の新しい報告書によると、米国の柑橘類生産の減少は、同国が長年保ってきた柑橘類市場シェアの世界的リーダーとしての地位を低下させた。

エコノミストのダニエル・ムンク氏が執筆した市場情報報告書によると、米国は1970年には世界のオレンジの50%近くを生産していたが、2023年にはわずか5%であった。同氏は報告書の中で、「かつて柑橘類生産のリーダーであった米国、特にフロリダ州の柑橘類生産者は、国内供給を不運な減少に導いた多くの課題に直面してきた」と述べた。(以下「」は報告書における同氏の記述)

同報告書によると、米国の柑橘類の供給量が減少した一方、輸入は大幅に増加している。

「米国は、2000年には900万箱弱の生鮮柑橘類を輸入したが、2022年にはその数は320%以上増えて3,700万箱を超えた。」これらの柑橘類の輸入量の約半分はメキシコ産であり、チリ産(15%)とペルー産(10%)がそれに続く。報告書によると柑橘類の輸入は4倍に急増したが、米国の輸出量は2000年の2,600万箱から2022年にはわずか1,200万箱に減少した。

「米国の柑橘類の生産量は、米国の柑橘類生産者がもはや内需を支えることも、市場シェアで世界をリードすることもできないほどの非常に低い水準にまで低下した。」

同氏は報告書で、世界的な柑橘類のシェアにおける米国の減少分は、ブラジル(35%)、中国(16%)及びEU(12%)が獲得したと述べている。

報告書にはフロリダ州の柑橘類に関する課題が記載されている。それによると、気象現象が一定の役割を果たしているものの、気象現象による極端な生産リスクは、継続的に発生しているカンキツグリーニング病の存在によって「影が薄く」なっている。報告書はまた、その不治の病は、アジアから西半球に侵入してきた樹液を吸う小さな昆虫であるミカンキジラミによって運ばれるとしている。

2005年にフロリダ州で最初に検出されたこの病気は、成熟前の落果を引き起こし、果実は成熟しても小さくなり変形すると報告書は記している。

「2005年以来、フロリダ州のオレンジ生産量は90%減少し、1億5千万箱から2023年にはわずか1,600万箱に減少すると見られる。」さらに、報告書によると2002年から2017年の間に、フロリダ州の柑橘類生産者の数は7,389から2,775に減少(62%減)し、果汁加工施設の数も2003年の41から2017年には14に減少(66%減)した。

報告書は、オレンジと同様に、グレープフルーツもフロリダ州に影響を与える天候要因と病気に大きく関連して国内生産量が継続的に減少してきたとしている。「2000年以降、国内のグレープフルーツ生産量は6,700万箱から800万箱に減少(88%減)した。」フロリダ州で栽培されているグレープフルーツの国内産に占める割合は、2000年の80%から2023年にはわずか20%に減少した。

対照的に、カリフォルニア州のグレープフルーツのシェアは2000年の11%から2023年には51%に上昇したと報告書は記している。

なお、報告書は、カリフォルニア州とアリゾナ州に限定される米国のレモン生産は、1980年代以来、2千万箱から3千万箱の範囲にとどまっていると指摘している。

「生産量が明らかな増加を示している唯一の柑橘類は、従来からのタンジェリンのほかタンジェロ、マンダリン、クレメンティン等を含めたタンジェリン類である。小さな手のひらサイズで簡単に皮がむける種無しを選択肢を紹介する販促キャンペーンの成功により、生鮮オレンジ/タンジェリン市場におけるタンジェリン類の消費量シェアは、2000年の20%未満から40%以上に増加した。」

報告書は、カリフォルニア州は2023年に米国のタンジェリン類の97%以上を出荷し、残りはフロリダ州が出荷すると予測している。報告書はまた、カリフォルニア州は2016年に柑橘類の総出荷量でフロリダ州を上回ったが、これはカリフォルニア州の出荷量の増加よりも、フロリダ州の出荷量の減少のためだとしている。

## 必要な支援

報告書は、生産者が柑橘類の病害虫の蔓延を管理・制御するのに役立つ「新たな革新と研究への支援の欠如」が、国内の柑橘類市場の長期的な見通しを悪化させているとしている。

報告書の著者であるムンク氏は、カンキツグリーンング病と戦うための研究への継続的な投資を促した。

「これらの病気と闘う生産者のための効果的で経済的に持続可能な解決策を見出すためには、柑橘類病研究開発緊急信託基金等の事業の定期的な承認が不可欠である。さらに、自然災害に直面している営農を維持するためには、リスクから守る作物保険などの事業により、柑橘類などの価値の高い特産農作物を手頃な負担で適切に保護できるようにすることが重要である。」

ムンク氏は結論として、作物の種類に関係なく、農業が米国においてこれからも経済的な選択肢の一つであることが「不可欠」であると述べた。

同氏は報告書の中で、生産者が国内で生産する意欲を損わせる土地利用の変動、高コスト及び絡み合った規制の網は、国の食料安全保障を危険にさらし、農業生産を海外に移転させると述べている。

執筆者：トム・カースト